

ふるさとの昔話

千鳥町の人助け稲荷のキツネ

今回は前回に引き続き、千鳥町（富士南地区）の「人助け稲荷」について、地元石川雅也さん（五十四歳）に伺いました。



流れ着いた稲荷さん

昔々のことです。富士川がはらんとし、千鳥町の一带も水浸しになりました。地区の人々が逃げ込んだ小高い場所の林には、お稲荷さんが流れ着きました。村人たちはありがたがって、「よくおいでくださいました。どうぞ、この土地の守り神になってください」と、ほこらを建ててお祭りしました。それで、この島を稲荷島と言うようになったと言われます。また、いつのころからかキツ



▷人助け稲荷



▷石川さん

ネも多く住むようになりました。このキツネたちに村人はよくだまされましたが、ひどく憎んだり、いじめたりすることはありませんでした。と言うのも、キツネはお稲荷さんの使いですし、キツネに助けられたこともあったからです。

ごちそうのはずが…

ある夜、四軒屋の熊さんが宮島のお祭りによばれての帰り道、お稲荷さんの前を通りました。横の川では、夜のことですから姿は見えませんが、魚がいつ

ばいいるらしく、ガシャガシャ音がしていました。「ようし、いっぱい取ってやろう」

と熊さんは、赤飯やらおすしの入ったお重をそばに置いて、川にザブザブ入っていきました。ところが魚は一匹もいません。「おかしいなあ。こりやあキツネに化かされたかな」と思っ

て、お重を持って帰りました。

家に帰って、お重をおかみさんに渡して、びっくり仰天。

「お前さん、こりやあ、どうい

うわけだい」お重の中身は何と、土と石ころだったのでした。熊さんは歯

ぎしりして悔しがりました。

あなたの生活便利メモ ⑨

緊急時の保育を始めました

市は一月から「緊急保育サービス事業」を始めました。これは、お母さん（保育している人）が急病や事故などで、子供をみれない場合、緊急・一時的に子供を保育園で預かる事業です。児童課の鳥居恒雄主査は「市内の公・私立三十二園全園で行っています。保育時間は原則として八時三十分から十六時三十



分（土は十二時）まで。使用料は四歳以上児の場合、一日七百三十円です。また、あわせて週二・三回パートで働いているような人のための保育サービスも始めました。ただし、この保育は天間の富士わかば保育園のみで、使用料等は同じです」と利用を呼びかけています。詳しくは児童課内線二三二八へ。

こちら編集室

新成人はればれトークでの余談。司会の鈴木奈緒美さんは仕事柄とてもスマート。ところが、高校卒業ごろまでは、とても太っていたとか。エアロビクスの練習を始めた途端、

3ヵ月で15%やせたとの話に一同「ウッソー」。でも本当。規則正しい生活と適度な運動をすれば、だれでもそれなりにやせるとのこと。あなたもいかが？



遊々タイム

.....③

【カラオケ】

「年に、こだわり過ぎちゃあいませんか？」と、パワー全開で活躍中なのが、石田隆さんを会長と

する富士岡波脇町老人会「榮寿会」の皆さん40人。

会費はただ。運営費は、お茶を売ったり、しめ飾りづくりで賄います。しめ飾りは、品物の確かさや、手づくりの暖かさが大評判。

昨年は、今までのカラオケセットでは飽き足らず、レーザーディスクをそろえました。カラオケ専門の増井茂作さん（75歳）は、宴会ともなれば席の暖まる暇ありません。カラオケで、みんなの遊び心がひとつになると、若さが2倍にも3倍にもなるんです。